

主索を使った変形岩大式の集材効果について

坂下・坂下製品事業所 日下部 金八〇皆戸一夫
林 美穂 三宅芳幸
各務 諭 村上和義
事業課生産係 生路芳男

要 旨

当署の製品生産事業の内容は、約6,800m³生産する中で、天然林が約1,400m³、人工林ヒノキが約5,400m³で、天然林は30%の抾伐、ヒノキ人工林では皆伐が4,010m³、複層林が660m³、間伐が730m³で作業仕組も複雑になっている。

これらの作業を計画的に実行するには、作業仕組、集材架線方式等の入念な検討が必要である。

今回、当事業所において集材架線方法について検討した中で、岩大式キャレジに改造を加え、主索を使った変形岩大式を実行した結果について取りまとめたものである。

はじめに

労働安全、生産性の向上、収入の確保は製品生産事業の実行に当たっては必須の要件である。

当所では、従来から上記要件の確保に努力してきたところであるが、人工林ヒノキの施業については、間伐あり、複層林あり、また皆伐作業もありと多様な作業仕組になっている。

中でも漸伐や間伐作業に当たって、従来の架線方式では、フォールバックラインによる保残木の損傷が甚だしいため、立木の間を自由に引出せるWエンドレス式とか、帯広式、岩大式等を採用してきた。今回実行した箇所は、川上国有林21林班で、事業量は資材で780m³、うち林道支障木が400m³である。

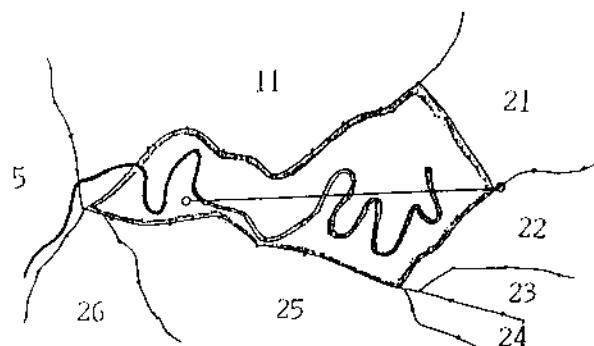


図-1 位置図

この集材に当たって架線方式を検討した結果、前述の架線方式はスパンが長いことと、元柱附近が急峻なため架線作業が複雑となり副作業がかかり増しとなることから、岩大式キャレジを改良して、主索を利用した架線方式を考案し実行した。

この作業方法によって、安全を確保し、生産性を大きく向上することができた。

I 実施結果

1. 岩大式について

当該地は、当年度新設林道の終点から約1kmの翌年度開設予定の林道支障木と間伐木を含めて資材780m³の集材造材箇所である。当初、岩大式を計画したが、元柱前方に小山があり岩大式では架線が高く上がらない。

(1) スパン約300mが最大距離で長距離集材ができない。

(2) 二段集材を必要とする。

(3) 主索となるエンドレス索の安全率4、垂下比0.04以上とするので架線高が低くなり、中間に凹凸が多い所では索のあたりや、材のショックが大きく、運転が困難である。

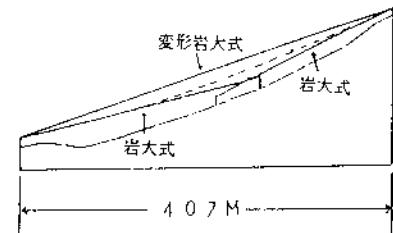


図-2 縦断図

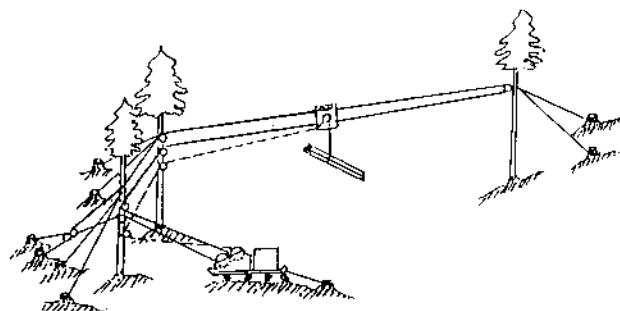


図-3 岩大式架線図

(4) 簡易架線設計計算のため、一荷当たりの荷重が少なく功程が上がらない。

2. Wエンドレス式について

(1) エンドレスラインが複数であり、引廻し緊張索等すべてが複数となるために架設作業、資材等、かかり増しとなる。

(2) 卷上索が10%のため、一荷当たりの荷重が大である。

(3) 卷上索のドラムがキャレジ内蔵されているため乱巻きを起し易く、運転が難しい。

3. 変形岩大式について

岩大式キャレジを次のように改良した。従来から使用している岩大式キャレジの上部にアングルで

表-1 簡易架線設計計算書

算定者 坂下	事務所 川上	国青林 林小班	架線番号 235	作成年月日 22日	計算者氏名 引井	審査年月日 審査者氏名 新井
I 基本架設方式						
ハイリード式 ③シニングスカイライン式 ダンハム式 モノケーブル式 スラックライン式						
地形架設						
水準距離 L = 260m 斜面傾角 α = 20° 斜面距離 H = 1.0 × 260 = 260m						
使用器具						
用 途 引 宿 素 引 房 素 主 素 副 加 素						
構成と種類 6xF(25) 6xF(25) 12 スラックライン式 モノケーブル式						
荷重比 S/L = 0.04 S = 30.8m (2.4倍) 荷重 Q = 0.1 × 30.8 × 0.65kg/m = 2 = 33.8 荷重 Q = 0.133kg - 集材重量 (2.4倍)						
各荷重の計算 (モノケーブル式) 荷重 S = 4 × 5 / L × S = 4						

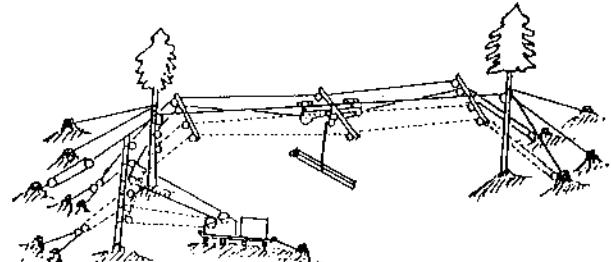


図-4 Wエンドレス式架線図

ステーを作り、ボルトで取付け、その両端にシープを備えたアームを付け、このシープを主索に掛け、後は従来どおりにエンドレス索でキャレジの走行、集材をするようにした。

- (1) 主索を使用したため、架線が高くなり運転操作が容易となった。
- (2) 主索を使用するため、長距離集材が可能となった。
- (3) 岩大式と異なり、一荷当たりの荷重が増大し功程が上昇した。
4. 架線方式別比較について

表-2 鋼索安全係数計算書

算定者 坂下	事務所 川上	国青林 林小班	集材編番号 235	作成年月日 22日	計算者氏名 引井	審査年月日 審査者氏名 新井
I 基本構造 (索種方式 W エンドレス式)						
支間 (1) 水 平 距 離 (2) 傾 斜 角 (3) 斜 距 離 (4) 高 低 差 (5) 主索 垂直比						
L = 407 m θ = 18° ε = 6.68 m h = 1.08 m S₀ = 0.04						
II 用 素						
主 素 6xF(25)	構成種類 B	索 徑 3.56 t	保証破断力 P = 1.73 kg/m	1mあたり重量 W = 4.22 kg	主 紴 6xF(25)	6.68 kg
副 素 6xF(25)	B	7.99 Q55t	P₁ = 0.326 kg/m	w₁ = 1.65 kg	副 紴 6xF(25)	6.68 kg
上 紴 6xF(25)			P₂ = 0.326 kg/m	w₂ = 1.65 kg	上 納 6xF(25)	6.68 kg
下 納 6xF(25)			P₃ = 0.326 kg/m	w₃ = 1.65 kg	下 納 6xF(25)	6.68 kg
III 構 造 重 量 P₀ P₀ = 8.00 kg + 2.40 kg × 1.08 + 3.30 kg = 14.72 kg						
IV 作業安全係数の計算						
IV-1 全 重 (W + P)	4.46 kg					
IV-2 荷 重 比 n = P / W	2.87					
IV-3 垂下比 当量係数 Z₁ (表2)	0.661					
補正係数の計算→I 判 断をしないときはε = 1						
IV-4 補 正 垂 下 比 S (S₀ × ε)	(0.037)					
IV-5 当 量 垂 下 比 S₁ (Z₁ × S₀)	(0.036)					
IV-6 最 大 強 力 係 数 φ₁ (ε S₀) 表3	6.74					
IV-7 最 大 保 力 T₁ (W + P) × φ₁	16.29 kg					
IV-8 安 全 因 子 N (T₁ / T₀)	2.27					
V 機械強度の計算						
V-1 最 大 保 力 係 数 φ₀ (ε S₀) 表3	2.56					
V-2 最 大 强 力 T₀ (W × φ₀)	16.67 kg					
V-3 当 量 垂 下 比 S₁ (Z₁ × S₀)	0.036					
V-4 最 大 强 力 係 数 φ₁ (ε S₀) 表3	6.74					
V-5 最 大 强 力 T₁ (W + P) × φ₁	16.29 kg					
V-6 強 力 差 Td T₁ - T₀	1.60 kg					
V-7 1t 当り機械強度 入 (表3 表6)	1.00000 t/kg					
V-8 機械強度 de	1.000 t					
V-9 強性伸長率 de / de₀	1.000 t					
V-10 支点位置に対するもの re / re₀	1.000 t					
V-11 支点位置に対するもの id / id₀	1.000 t					
V-12 総 合 + re × id	1.000 t					
VI 最大張力						
VI-1 タイラー式 T₁' T₀' T₀ × 1.4	kg					
VI-2 エンドレスタイラー式 T₁' T₀' T₀ + T₁'	kg					
VI-3 フィーリングブロック式 T₁' T₀ + T₁'	kg					
VI-4 エンドレス式 T₁' T₀ + T₁'	kg					
VI-5 安全係数 N B₀ × 1.2 / T₁'	2.40					
VI-6 エンドレス式のエンドレス索では B₀ / T₁'	≥ 6.0					
VI-7 エンドレスタイラー式のエンドレス索 B₀ / T₁'	≥ 4.0					

備考1. 「表」とは機械器具設計書作成の手引の数値表をいう。

表-3 鋼索安全係数計算書

官 林 市 施 所 国 有 林	川 上	林 小 班	施 施 計 算 書	計 算 作 成 日	計 算 者 氏 名	審 察 年 月 日	審 察 者 氏 名
坂 下	坂 下				○		○
I 基本事項 (索道方式 变形岩大式)							
支間 (1) 水平距離 (2) 傾斜角 (3) 斜距離 (cosθ) (4) 高低差 (cosθtanφ) (5) 主張因索下比							
(1) $l_0 = 467 \text{ m}$	(2) $\alpha = 18^\circ$	(3) $r = \sqrt{l_0^2 + h^2} = \sqrt{467^2 + 100^2} \text{ m}$	(4) $S_0 = 0.03$				
鋼索 用 途 主 準 $\times 2$ $B_1 = 4 \times 7$ $P_1 = 1.36 \text{ kg/m}$ $W_1 = 582 \text{ kg}$							
海 上 素 $\times 2$ $B_2 = 3.5 \times 6$ $P_2 = 0.524 \text{ kg/m}$ $W_2 = 106 \text{ kg}$							
エンドレス索 $\times 2$ $B_3 = 1.2 \times 9$ $P_3 = 0.555 \text{ kg/m}$ $W_3 = 128 \text{ kg}$							
引 挽 索 $\times 2$ $B_4 = 1.2 \times 9$ $P_4 = 0.555 \text{ kg/m}$ $W_4 = 128 \text{ kg}$							
荷重 (16) 機械重量 P_0 (17) 空荷機重量 P_C (18) 作業荷重 w (19) 施工荷重 P							
(16) 580 kg	(17) 100 kg	(18) $w = 100 \text{ kg}$	(19) $P = 1110 \text{ kg}$				
作業荷重量の算出式							
エンドレスタイラ式 (サイドアームキャレジ) $w = \frac{w_1}{2} + w_2 + \frac{w_3}{4}$							
エンドレスタイラ式 (引挽索付) $w = \frac{w_1}{2} + \frac{w_2}{2} + \frac{w_4}{4}$							
タイラー式 $w = \frac{w_1}{2} + \frac{w_2}{4}$							
フォーリングブロック式 $w = \frac{w_1}{4} + \frac{w_2}{4}$							
エンドレス式 $w = \frac{w_1}{2}$							
スナッピング式 $w = \frac{w_1}{4}$							
(20) 支点位置 $d_1 = () \text{ m}$ (21) 支点位置 $d_2 = \frac{d_1 P}{P_0} = () \text{ m}$							
II 主張安全係数の計算							
(22) 全荷重 $(W + P)$ 1892 kg							
(23) 両重比 $R = \frac{P}{W} = 1.91$							
(24) 重下比当量係数 Z_1 (表2) 0.892							
補正係数の計算 (25) 補正計算をしないときは $\lambda = 1$							
(26) 補正垂下比 $S_1 = \frac{(S_0 \times \lambda)}{R} = \frac{(0.025)}{1.91} = 0.013$							
(27) 当量垂下比 $S_1' = \frac{Z_1 \times S_1}{R} = \frac{0.892 \times 0.013}{1.91} = 0.008$							
(28) 最大張力係数 $\phi_1 = \frac{1}{(a \cdot S_1)} = \frac{1}{(0.025)} = 40$							
(29) 最大張力 $T_1 = \frac{P}{\phi_1} = \frac{1892}{40} = 47.3 \text{ kN}$							
(30) 安全係数 $N_1 = \frac{T_1}{T_1'} = \frac{47.3}{1.0} = 47.3$							
III 作業荷安全係数の計算							
III-1 商上索又は引挽索							
(31) 最大巻上荷重 $w' = 1.25 \text{ m}$							
(32) ロージングブロック $P_E = \text{木板ロージングブロック重量の合計} = 5.80 \text{ kg}$							
(33) ロージングブロックにかかる数の本数 no = /							
(34) 最大張力 $T_1' = P_E \cdot \frac{P}{W_1 + P_E \times h} = 59.1 \text{ kN}$							
(35) 安全係数 $N_1 = \frac{T_1}{T_1'} = \frac{47.3}{59.1} = 0.80$							
III-2 引挽索又はエンドレス索							
(36) 何重けん引力 T_P							
(37) 高張けん引力 $T_P = \frac{P}{P_x(\text{am}) \times 1.4} = 4.90 \text{ kg}$							
(38) エンドレス索基盤張力 T_0 (エンドレスタイラ式以外は不要)							
(39) 基礎垂下比 $S_1 = \frac{W}{S_x} = \frac{0.025}{(1.2 \sim 1.8)} = 0.021$							
(40) 最大張力係数 $\phi_2 = \frac{1}{(a \cdot S_1)} = \frac{1}{(0.025)} = 40$							
(41) 最大張力 $T_0 = \frac{W}{\phi_2} = \frac{0.025}{40} = 0.625 \text{ kN}$							
(42) 強度力 $T_d = T_1 - T_0 = 40.675 \text{ kN}$							
(43) 強度力差 $T_d = T_1 - T_0 = 40.675 \text{ kN}$							
(44) 1.1倍引張性油長率 $\lambda = 0.00086 / d$							
(45) 引張性油長率 $\lambda = \lambda \times T_d = 0.00086 \times 40.675 = 0.0345 \text{ m}$							
(46) 強度油長率 $\lambda = \frac{1}{d} = \frac{1}{40.675} = 0.025 \text{ m}$							
(47) 基礎垂下比に対するもの $\lambda = \frac{1}{S_x} = \frac{1}{0.025} = 40$							
(48) 支点位置に対するもの $\lambda = \frac{1}{d} = \frac{1}{40.675} = 0.025 \text{ m}$							
(49) 合計 $\lambda = \lambda + \lambda = 0.06 \text{ m}$							

備考1. 「表」とは機械構造設計書作成の手引の数値表をいう。

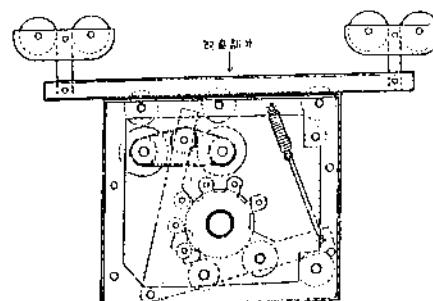


図-5 改良型岩大式キャレヂ

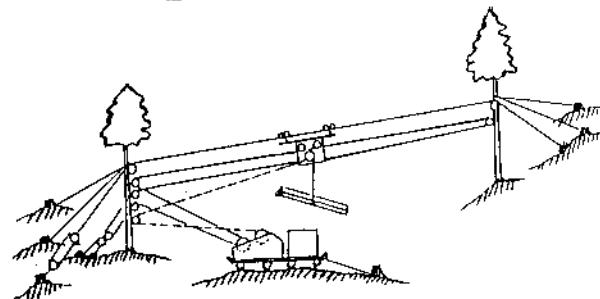


図-6 改良型岩大式架線図

表-4 架線方式別比較表

項目	岩 大 式	W エンドレス式	変 形 岩 大 式
ス バ ン	428 m	428 m	428 m
主 線 径	無	18 mm	18 mm
垂 下 比	0.04	0.03	0.03
安 全 率	3.2	4.1	4.1
エンドレス索径	12 mm	10 mm	12 mm
安 全 率	4.0	4.6	6.0
二 段 中 線	必要	不要	不要
集材線架設人工数	(本線含む) 49人	37人	28人
撤収人工数	(本線含む) 20人	16人	11人
一荷の荷重	249 kg	800 kg	580 kg
1日工程	10 m ³	13 m ³	13 m ³
エンドレス索耐用材積	約 500 m ³	約 800 m ³	約 800 m ³
運転操作難易度	難	やや難	易

II 実行結果

1. 主索を使用したため、架線が高くなり引出し作業が容易になった。
2. 材のあおりによるショックが少なくなったため、集材機の運転が容易になった。
3. エンドレス索が一本であるため、Wエンドレス式に比べて架設、撤収が容易になった。
4. エンドレス索の緊張度が小さいため、索の摩耗が少なくなった。
5. 主索を使った架線設計のため、一荷当たりの荷重が増大し、功程が上昇した。

III 考察

今後、非皆伐施業が増加する傾向にあるが、ランニングスカイライン式エンドレスフック型は最も有利な架線方式と思われる。生産性、安全性、更新等を考慮し、現地に即応した方法を採用していきたい。

おわりに

作業地ごとに環境変化の多い立地条件の中で、画一的な作業仕組を組立てると無理を生ずることになるため、日常の創意工夫によって常に作業の安全化、労働生産性の向上に取組み、林業技術の向上に努めてきたところである。今回、新しい集材方式の開発を試み、ほぼその目的を達成することができた。

今後も、より安全で、能率的な技術開発に取組んでいきたい。